

勢多だより

SETA DAYORI

No. 104

2016年3月

留学生との交流会「国際交流の夕べ」
マレーシア国民大学からの研修生受入れ
留学生等バス研修旅行

新任教員紹介

定年退職教授のあいさつ

国際交流



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

【メインテーマ】 国際交流

トピックス

- 01 留学生との交流会「国際交流のタベ」
- 03 マレーシア国民大学からの研修生受入れ
- 04 留学生等バス研修旅行

キャンパスライフ

- 06 研究医養成コース活動紹介 社会医学講座(公衆衛生学部門)編

図書館からのお知らせ

- 08 図書館で語学学習!

新任教員紹介

- 10 解剖学講座(神経形態学部門) 教授 勝山 裕

定年退職教授のあいさつ

- 11 薬理学講座 教授 岡村 富夫
- 12 小児科学講座 教授 竹内 義博
- 13 基礎看護学講座(形態・生理) 教授 森川 茂廣
- 14 臨床看護学講座(老年) 教授 畑野 相子

JCHO滋賀病院だより

- 15 JCHO滋賀病院の紹介 JCHO滋賀病院 院長 来見 良誠
- 17 腎センターの紹介 JCHO滋賀病院 副院長・腎センター部長 有村 哲朗

インフォメーション

- 19 研究医コースのご案内
- 20 第41回 若鮎祭収支決算報告

編集後記 (宮松編集長)

トピックス

Topics

留学生との交流会「国際交流の夕べ」 Social Gathering for International Exchange in 2016

平成 28 年 1 月 20 日（水）、本学 CMC ホールにおいて、外国人留学生との交流会「国際交流の夕べ」を開催しました。

交流会には、本学に在籍する外国人留学生、外国人研究者をはじめ、日頃よりご支援をいただいている関係団体、教職員など、総勢 76 余名が集い、親睦を図りました。

今回は、SUMS プロジェクトでモンゴル国立医科大学から来学している研究者等の有志が、モンゴルの伝統音楽を披露してくれました。堂々たる歌声と繊細な演奏に、会場から惜しめない拍手が送られました。中央のテーブルには、カナダの留学生による母国のデザートが並び、大好評を博しました。

最後は、参加者全員が本学混声合唱団とともに「琵琶湖周航の歌」を合唱し、和やかな雰囲気の中、お開きとなりました。



（留学生の声）

- 留学生が自分の国を紹介するポスターがあればよい。それぞれの文化について話すきっかけになる。
- 各講座から日本人の院生にも参加してもらってはどうか。
- 琵琶湖周航の歌は、みんなと一緒に歌えるので楽しい。



On January 20, a social gathering called “Evening for International Exchange” was held at the CMC Hall. Over 70 people got together, including our international students and researchers, the delegates from supporting organizations and SUMS’ faculty and staff members. It was a great opportunity for the participants to develop closer relations with each other.

This year, Rentsendorj from Mongol and his friend performed Mongolian traditional music with khoomii and matouqin. His magnificent songs and sensitive performances were riveting for the audience and was met with great applause.

On the main table, a delicious Kuwaiti dessert



made by the student from Canada was lined up, and were eagerly consumed.

At the end of the party, all participants sang Biwako Shuukoo no Uta (Lake Biwa Boat Cruising Song) together, with SUMS Chorus Club, which is customary for this annual event. It was an enjoyable evening with a friendly atmosphere.

(Voices of International Student)

- We should have some posters introduced by international students about their home countries, so we can discuss together more about different cultures.
- What about if you include graduate Japanese students from each department?
- I loved “Biwako song” because I was able to sing together with others.



マレーシア国民大学からの研修生受入れ SUMS received 3 students from National University of Malaysia

12月1日から18日までの3週間、マレーシア国民大学看護学科から学生3名を研修生として受け入れました。この受け入れは、滋賀医科大学とマレーシア国民大学との国際交流協定に基づき、両校の看護学科間の交換研修として実現したもので、8月には、本学看護学科の学生3名がマレーシア国民大学で研修を行っています。

マレーシア国民大学の学生たちは、看護管理、感染管理、医療安全管理などについて看護学科および看護

部でレクチャーを受け、附属病院では救急・集中治療部や小児科など様々な部門を見学しました。3週目には、分子神経科学研究センターを見学し、また、学外の高齢者施設や障害児施設を訪ねました。

最終日の12月18日には、研修の成果発表会および懇談会を開催し、学生たちは、研修で学んだ知見を紹介するとともに、日本とマレーシアの看護体制を比較するなど、優れた発表を行いました。



SUMS received three nursing students from National University of Malaysia for three weeks from December 1 to December 18, 2015.

This was realized through the exchanging agreement with National University of Malaysia. Three nursing students of SUMS participated in the exchanging program in Malaysia last August in the same way.

Students from Malaysia attended lectures on nursing management, infection control, safety management and so on at the School of Nursing and the Nursing Division. At the



University Hospital, they toured the Emergency and I.C.U, the Pediatrics and other departments. On the third week, they visited the Molecular Neuroscience Research Center and also went to the field trip to a nursing home for the elderly and the handicapped children.

On the final day, they had the student presentation and the closing session. The students gave brilliant presentations of the result of the program, comparing the nursing care system in their country and in Japan.



留学生等バス研修旅行

Excursion for overseas students and researchers 2015

12月11日（金）、12日（土）の両日、郡上八幡・飛騨高山方面へ留学生等のバス旅行を実施しました。当日は留学生の家族も含め総勢26名が参加しました。

初日は、美濃関物産館で、昼食後に関刃物と美濃和紙を見学。その後、郡上八幡のいわさきサンプルビレッジで、食品サンプルの製作体験を行いました。参加者一同、工房内に展示された本物そっくりの食品サンプルに驚き、また、指導員の手ほどきを受けながら海老の天ぷらとレタスの食品サンプルを製作しました。続いて、郡上八幡の中心街に移動し、古い町並みを散策

しました。夜は、日本三大名湯のひとつ下呂温泉でゆっくりと温泉を楽しみました。

2日目は、午前中に下呂温泉合掌村を見学。古い山里の生活に思いを馳せた後、午後は、飛騨高山まつりの森を訪れ、豪華絢爛な祭屋台と、からくり人形の鮮やかな仕掛けに目を見張りました。

今回のバス旅行では、これまで留学生から希望の多かった食品サンプルの製作体験を行い、また、伝統的な日本情緒を満喫し、大変有意義な2日間となりました。

（留学生の声）

- 今回の旅行はとても良かった。ホテルは快適だったし温泉も気持ちよかった。なかでも、飛騨高山まつりの森で見た祭屋台とからくり人形が印象に残っている。素晴らしい思い出ができたことを、大学とスタッフに感謝したい。
- 和食がおいしかったです。日本のお祭りについて理解が深まりました。下呂温泉合掌村では昔の日本の生活についても学べました。



From Friday, December 11 to Saturday, December 12, an excursion for overseas students, researchers and their family was held. A total number of 26 people participated in this bus tour to Gujo-Hachiman and Hida-Takayama area.

On the first day, they visited Mino-Seki Bussankan to see Seki Hamono products (fine cutting knives) and Mino washi (japanese papers) and have Japanese style lunch.

At Iwasaki sample village in Gujo-Hachiman, they experienced making food samples. Every participant were surprised to see the life-like samples which were displayed there and made samples of Tempura and the lettuce by themselves under the staff's guidance. After that, they moved to the city center and explored the old street.

At night, they relaxed and enjoyed fully the Gero Onsen which is one of the three best hot springs in Japan.

On the second day, they toured the Gero Onsen Gassho village in the morning. They were able to imagine the life in old days in the mountain valley. In the afternoon, they visited the Matsuri no Mori ('Festival Forest')

in Takayama city. Gorgeous festival floats and brilliant marionettes captivated them.

Participants were very satisfied by experiencing the food sample making which was the most requested activity from foreign students and enjoying the essence of traditional Japanese culture. It was a fruitful and memorable two days of excursion.

(Voices of International Student)

- This excursion is very successful. The hotel is comfortable, and the onsen is so good. The best part I think is the Hida-Takayama Matsuri no Mori Museum. I had seen many kinds of actions there. I am grateful to our university and the organizers. You gave me an amazing memory!
- The food was very Japanese style and delicious as well. I could understand more clearly about Japanese festival. I was also introduced ancient Japanese life through Gero Onsen Gassho Village.



研究医養成コース活動紹介 社会医学講座(公衆衛生学部門)編

研究医養成コースでは、基礎系研究医の養成のため、研究サークル等、学生の主体的な探究活動をサポートしながら、課外活動としての研究の場を提供しています。

今号では、研究医養成コースに登録している杉本裕子さんと社会医学講座(公衆衛生学部門)の三浦克之教授にどのような活動をしているのか紹介させていただきます。



医学科第4学年 杉本 裕子
所属研究室 社会医学講座(公衆衛生学部門)
指導教員 三浦 克之 教授
研究テーマ 「我が国における肥満指標と冠動脈石灰化(CAC)との関連について」



Q. 研究医養成コースを履修しようと考えたきっかけはなんですか？

A. 2年生の時に、当時学年担任をされていた等教授とお話させて頂く機会があり、「学生のうちに何かをやりとげたい。できれば将来にも役立つことを…」という私に、「それなら研究をやってみたら？メリットこそあれ、デメリットはないと思うよ。」と勧めて頂き、まず入門研究医に登録しました。その後いくつかの研究室を見せて頂いたときに、三浦教授のお話の中にあつた「小医は既に病みたる病を医す。中医は将に病まんとする病を医す。上医は未だ病まざる病を医す。」ということわざに感銘を受け、公衆衛生学教室の研究医として登録して頂きました。

Q. 取り組んでいる研究について教えてください。

A. 最初は公衆衛生のこの字もわからなかったのですが、指導担当をして下さっている久松先生にテーマを勧めて頂き、今は肥満指標と冠動脈石灰化(CAC)の関連をみる研究をしています。ウエストやBMI、ヒップなど、肥満指標にはいろいろなものがありますが、それらがどのように潜在性動脈硬化である冠動脈石灰化の予測に使えるのか、というものです。滋賀県草津市で行われたSESSAという研究のデータを使わせて頂いており、肥満やメタボリックシンドローム診断基準のエビデンスの一端になれば、と思っています。

Q. 登録研究医コースに登録してよかったと思うことは？

A. 三浦教授をはじめとして、日本だけでなく世界でご活躍されていらっしゃる先生方に、直接研究に対するご意見を頂けることです。ビッグデータを扱わせて頂けることと

同様、普通の学生生活では得難い貴重な経験なので、本当に有難いと思います。また、研究医コースの取り組みとして、月に何度か学内研究発表会があるので、そこで自分の分野とは違う研究をしておられる方々の研究内容を聞かせて頂けるのも大きなメリットのひとつです。

Q. 将来の夢はなんですか？

A. 研修医以降数年は現場で臨床の腕を磨き、その後は大学院に入りなおすなどして、また疫学研究に携わることができたら、と思っています。(いつかは海外留学もできたらいいな…)

Q. 登録を考えている後輩へ一言お願いします。

A. 登録研究医コースでは、普通の授業では習わないようなことをたくさん経験できます。特に公衆衛生はマクロの視点から人を見ることが出来る素敵な分野だと思います。迷っている方は是非、入門研究医からはじめてみませんか？



指導教授と参加講座の紹介

社会医学講座(公衆衛生学部門)教授 三浦 克之

研究分野 公衆衛生学、生活習慣病の疫学、予防医学

主な担当科目 公衆衛生学



(1) 研究室紹介

当部門は、生活習慣病予防のための多様な疫学研究に取り組んでいます。大規模集団を対象とする疫学研究は多大な労力・費用と長い時間を要しますが、これまで国内・国外の多くの共同研究者とともに数々の研究を行い、重要なエビデンスを創出してきました(図1)。これらの研究をさらに推進するために2013年10月にアジア疫学研究センターが新築されました。

研究は、全国300地区からの国民代表集団を追跡している厚生労働省指定研究NIPPON DATA80/90/2010、滋賀県全域における脳卒中の発症率を明らかにする滋賀脳卒中データベース、高島市住民における疫学研究である高島研究、草津市住民において動脈硬化と関連要因を検討している滋賀動脈硬化疫学研究 SESSA、日・米・韓の3カ国4集団において動脈硬化を比較する国際共同研究 ERA-JUMP、日・中・米・英の4カ国の血圧に関する国際共同研究 INTERMAP、我が国を代表する循環器疫学コホート研究を統合した国内共同研究 EPOCH-JAPAN、など多岐にわたります。

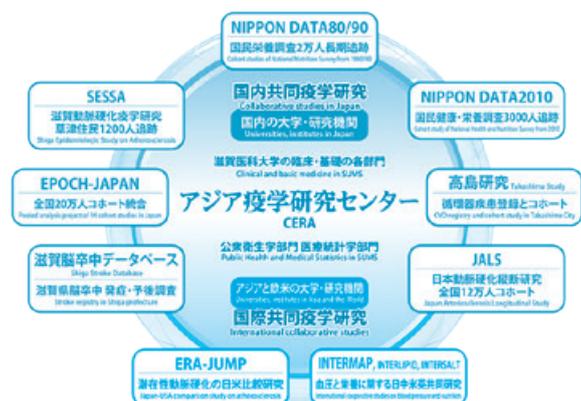
日本と世界の生活習慣病予防・健康寿命の延伸に役立つ研究成果の創出と、予防医学の将来を担う医師・医学研究者の育成を目指して、日々励んでいる研究室です。(写真1)

(2) 学生へのメッセージ

現在、我が国を含む先進各国のみならず途上国まで、循環器疾患やがんなど生活習慣病の予防が大きな課題となっています。公衆衛生学は人間の健康を集団として衛り、疾病を予防するための科学であり、そのために私たちは疫学という研究手法を用います。

疫学とは、人間を集団として捉え、疾患の動向や原因、そして対策を明らかにするためにデータを収集・解析していくという医学研究の方法の一つです。医学が発展していくのに必要な「エビデンス」の多くが疫学的エビデンスです。

今後の医学は予防医学が中心になっていくと予想されています。ともに予防医学研究に取り組んでくれる若い人の参加を待っています。



(図1)



(写真1)

図書館からのお知らせ

News from the library

図書館で語学学習！

Language Learning in Library!

この度附属図書館では、語学学習資料整備のために学長裁量経費の配分を受けました。それにより教材資料が充実し、語学学習に役立つ図書館としてパワーアップしました！どんな資料があって、どんな風に勉強できるのか？ご紹介します！

グレード別リーダーで多読！

図書館 1 階の閲覧席右奥の書架に、新しい洋書がずらっと並びました。これらは、外国の文学作品のシリーズです。使われている語彙のレベルに応じてグレードが分かれています。是非気になるタイトルから手に取って、どんどん読み進めていってください！

一部の本には朗読 CD もついていますので、聴きながらストーリーを追うことで耳で英語に親しむことも可能です！



相浦先生よりコメント

～みなさまに心のオアシスを提供いたします！～

今年度、図書館に念願のグレード別の洋書を多数入れていただきました。もともと英語で書かれた英米等の作品の他に世界から有名な作品を集めて英語に翻訳されています。ご自分の英語力に応じてレベルが選べますので、それほど辞書に頼らない範囲で、しかし少し難し目くらいの作品を選んで多読・多聴されることをお勧めします。

名作と知っていても読んだことのなかった本や、自分では経験できないような世界、未知の世界、共感を覚えることのできる世界などが次々と脳裏に広がることでしょう。これをきっかけにして皆様の心がさらに豊かになることを祈っています。



写真左から：
医療文化学講座（英語） 相浦 玲子 教授
外国人教師 Richard John Hodge 先生

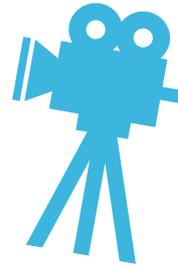
映画で楽しく外国語を勉強！

1 階語学学習室に配架中の、映画やドキュメンタリー DVD もますます充実しました！
今回は、日本語字幕のほかに外国語字幕も選べる DVD を中心に購入しています。
好きな映画はいろいろな音声・字幕で、
何度も見て語学力の向上に役立ててください。

こちらは語学学習室内で鑑賞できるほか、
一部の DVD については館外貸出も OK！
是非お家でも映画をお楽しみください。

例えばこんな作品があります ...

「わたしを離さないで」「ビューティフルマインド」
「BONES 骨は語る」「最高の人生の見つけ方」
「死ぬまでにしたい 10 のこと」
「エボラ出血熱 人類を襲う感染症との闘い」



電子ブックで気軽に勉強！

附属図書館のウェブサイトから電子ブックが見られることをご存知ですか？
ホームページ左側メニューの「電子ブック」から検索することができるほか、
該当の資料は CanZo の検索結果からリンクをたどって読むこともできます。
語学学習に役立つハウツー本や、日本文学の英訳作品などを追加していますので、
ぜひアクセスしてみてください！

例えばこんな本があります ...

「Eメールのフランス語」
(スペイン語、イタリア語、ドイツ語、韓国語、中国語もあります！)
「ネイティブが教える 英語の動詞の使い分け」「ほめる英語・励ます英語」
「Norwegian Wood」(ノルウェイの森/村上春樹)
「Miyazawa Kenji Selections」(宮沢賢治作品集)

ぜひ自分に合った資料を見つけ、語学力アップを目指してください！

新任教員紹介

New teacher
introduction

解剖学講座(神経形態学部門)

教授 勝山 裕



このたび2016年1月1日付けで解剖学講座・神経形態学部門教授を拜命いたしました。解剖学は医学教育の基礎であり、与えられた職責の大きさに身も心も引き締まる思いです。

私は金沢大学理学部を卒業後、大学院、通産省工業技術院、米国留学の間は、動物初期胚を用いた発生生物学的研究を行いました。DNA操作の基礎を京都大学佐藤 矩助教授(当時)の研究室で学び、さらに東京都立大学西駕秀俊助教授(当時)から博士課程を通してほぼマンツーマンで指導を受けました。これまで研究を進めていく上でモレキュラークロニング技術は強力な武器となりました。学位取得後、研究員、ポスドクの期間には胚操作技術を習得し、機能から新規遺伝子の同定を試み、留学時にはWnt受容体の同定やTGF- β /NodalとBMPシグナルの遺伝子発現制御の違いを与える分子機構の解明といったプロジェクトに加わりました。

米留学ビザが切れる3年目が終わる頃に神戸大学神経発生学分野(旧第一解剖)の寺島教授からお声をかけていただきました。人体解剖学というそれまで無縁の分野に足を踏み入れることに不安を感じながらも寺島先生の人柄に魅力を感じ、解剖学講座の助手になり講義・実習を行いました。最初の2年ほどは解剖学の勉強で手一杯でしたが、私と一緒に研究をしたいという学生が現れたのを機に、理研CDBの客員研究員にいただき、大学と理研の間を行き来しながら研究を進めました。寺島教授が神経解剖学的解析を行って

いたReelin-Dab1シグナルについて変異マウスとゼブラフィッシュを用いた研究を開始し、2010年に東北大学医学部に脳解剖学講師として異動しました。神戸で作製したノックアウトマウスや抗体を携えて仙台に乗り込んだのですが、研究を開始した矢先に大きな地震に見舞われ、かなりの研究試料を失いました。研究面では困難に遭遇しましたが、教育の面では講師の立場であるにもかかわらず、脳解剖学という1つの科目のシラバス作成、講義、実習、試験問題の作成・実施・評価の全てを担当し大学教員として経験を積む事が出来ました。大和田先生が東北大学解剖学教授に就任された際に、解剖学講座に再び在籍することとなり、仙台でも脳だけでなく全身の解剖の講義と実習指導を行いました。

滋賀医科大学から採用のご連絡をいただいた時に、寺島教授から「教育から逃げるな」と、一方で大和田教授からは「教育に逃げるな」という言葉をいただきました。敬愛するお二人の解剖学者がおっしゃる申し合わせた様によく似た、しかし真逆の言葉が意味することは同じであり、「解剖学教授として研究と教育の両方を手を抜かずにやれ」ということであります。浅学の身で大学教員として研究者として人間として未熟ではありますが、滋賀医科大学における教育と研究に全力で貢献してまいります。皆様のご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

経歴

1991年 3月 金沢大学理学部卒業
1993年 3月 高知大学大学院理学研究科修士課程修了
1996年 3月 東京都立大学大学院理学系研究科博士課程修了
1996年 4月 通産省工業技術院 研究員
1999年 10月 Harvard Medical School, Children's Hospital Research Fellow
2000年 10月 University of California, Irvine Postdoctoral Fellow

2002年 11月 神戸大学大学院医学系研究科神経発生学分野(旧第一解剖)助手
2005年 4月 神戸大学大学院医学研究科神経発生学分野 助教
2010年 10月 東北大学医学部医学科 脳解剖学 講師
2015年 10月 東北大学大学院医学系研究科器官解剖学分野 准教授
2016年 1月 滋賀医科大学医学部医学科解剖学講座神経形態学部門 教授

定年退職教授のあいさつ

Message from the outgoing professor

定年を迎えるにあたり

薬理学講座 岡村 富夫



1982年5月に薬理学講座の助手として着任し、ほぼ34年間滋賀医大にお世話になりました。私は大阪市立大学医学部を卒業後、同大学薬理学教室の大学院生となり、学位取得後、米国Vanderbilt大学生化学教室に約3年間留学し、直接米国から本学に赴任しました。この3大学での体験が人生のほとんどになりますが、各々の大学で素晴らしい先生と出会うことが出来たことが幸運だったと思います。

私の大学生生活は3年生から始まるといっても過言ではありません。入学時は紛争のために大学が封鎖され、教養課程である2年間は教育を受けた記憶がありません。幸い教養と専門の校舎が離れていたことが、大学生活をリスタートできた要因だと思います。

4年次の基礎配属先として薬理学教室を選択しました。新進気鋭の山本研二郎先生（後に学長）が主宰されていた教室の雰囲気が入りに、気がつけば大学院生になっていました。先生は教室員の自主性を尊重され、大きな舵取りはされますが、毎日細かに実験の指示をされることは有りませんでした。

大学院修了後にVanderbilt大学生化学教室の稲上正先生の研究室へ留学しました。先生はプロテアーゼの専門家で、当時レニンを初めて精製された功績で、高血圧研究所の所長を兼任されていました。私の役割は生化学を学ぶことでは無く、レニン抗体を用いて生理・薬理的な研究を展開することでした。多くの腎外組織においてレニンの局在が明らかになり、最初の論文であるPNAS誌に組織レニン-アンジオテンシン(R-A)系の概念を提唱することができました。

赴任した滋賀医大では戸田昇先生が血管機能に関する研究を網羅的に展開されていました。そこで、留学時の成果を血管組織に応用して、高血圧における血

管壁R-A系の役割を明らかにしました。同時期は内皮由来血管弛緩因子(EDRF)の発見直後で、国際的な同定競争の最中でした。我々の挑戦は不首尾でしたが、それがNOと同定される際に使用されたNO合成酵素阻害薬が、戸田先生が発見された血管拡張神経の機能を選択的に抑制することを見出し、同神経をNO作動性神経と名付けました。一連の研究が評価され、1997年に日本初のNOに関する国際学会を主催しました。Secretariatを担当したおかげで、多くの著名な研究者と知り合うことが出来ましたし、コンベンション会社やホームページが今ほど周知されていなかった時代に手作りで国際学会を運営した経験が、その後の研究活動や学会活動の財産になりました。

種々の生活習慣病は動脈硬化の危険因子であり、動脈硬化を薬物治療できないため、発症を遅らせることが重要です。初期段階で見られる血管壁での酸化ストレスの亢進と血管内皮細胞機能異常の発生機序として、内皮細胞に存在するNO合成酵素のアンカップリング状態を発見し、血管機能異常と動脈硬化の関連を明らかに出来たことは大きな成果と考えています。

学内にあっては評価委員会のまとめ役と医学科長の要職を拝命し、大過なく終えることができました。多くの関係者の努力と協力が有ったことだと改めて感謝致しております。

大学の法人化と新医師臨床研修制度という大きなシステム変更を経験し、若い頃と比べると基礎医学講座にパワーと時間の余裕が無くなってきたように感じます。優れた医療従事者や医学研究者を育てる意味でも充実した環境が得られることを期待しております。

最後になりますが、滋賀医大のますますの発展を祈念致しております。

滋賀医科大学での15年間を振り返って



小児科学講座 竹内 義博

新世紀を迎えたばかりの平成13年2月1日に滋賀医科大学に奉職させて頂きました。初代小児科学講座教授は京都府立医科大学学長を務められた中村恒男先生（初代滋賀医科大学医学部附属病院院長）、2代目教授は四半世紀に亘って小児科学講座を主宰され日本小児神経学会の重鎮であられた島田司巳先生でしたので、赴任時から大きな責任を感じておりました。私は最初の医局会で次の3つの基本方針を示しました。(1) “Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.” (John F. Kennedy) を引用して、「個人よりも組織・社会」「個人よりも講座、講座よりも大学」という意識を持って欲しい。(2) 奉職する滋賀医科大学に矜持を持って欲しい。(3) 診療においては専門性と総合性を両立させ、「子どものために闘う小児科」をモットーにしたい。

これら3つの基本方針は15年間変わることはなく、教室員が理解し日々の業務に携わって呉れたと確信しています。先ず平成13年度は滋賀県における小児医療の現状の把握に努め、教室員や同門会（童心会）員の意見も聞き、私が小児科学講座教授として行うべきことを次の3点に絞りました。即ち(1) 滋賀県における健全な小児救急医療体制の確立、(2) 新生児医療体制および産科と連携した周産期医療体制の確立、(3) 発達障害（注意欠陥多動性障害、自閉症等）を専門とする小児科医の育成と発達障害医療の中核施設の設置です。幸いこれらの目標は、滋賀県における中核病院小児科（本学）と4つの小児医療圏における地域小児科センターの決定（内3つは本学関連病院小児科）および湖南広域休日急病診療所の開設、本学における新生児集中治療室（NICU）の開設と総合母子周産期センターの認定、小児発達支援学講座の開設と言う形で一昨年達成されました。

成長・発達過程にある子どもが対象の小児科は、トータルに診る姿勢を堅持しなければなりません。県内唯一の医科大学であり学生から研修医、専門医の一貫した教育を担う本学では、小児科の総ての分野をカバーする必要があり、診療においても教育においても専門性と総合性を両立することは不可欠です。そのため多大なエネルギーを注いで、講座内に発達障害部門、新

生児部門、救急集中治療部門の開設に努め、神経、発達障害、血液・腫瘍、免疫・アレルギー、内分泌・代謝、循環器、腎臓、新生児、救急集中治療の各部門を専門とするスタッフ（助教以上）を確保しながら、卒前卒後教育を実践して来ました。定年退職を控え最近入局者は減少していますが、それでも平成13年以降の入局者総数は80名に上り、そのほとんどが現在も滋賀県の小児医療に携わっています。講座の基本方針とスタッフの熱意が学生や研修医から評価された結果だと感謝しております。

平成15年3月、当時の吉川隆一学長、森田陸司病院長、馬場忠雄副学長の執行部は病院再開発計画を本格的に進めることを決断され、私は病院再開発委員会委員長を命ぜられました。赴任してまだ2年の新米教授である私が、滋賀医科大学の大事業である病院再開発の責任者をお引き受けした理由の一つは、奉職する本学に対する感謝と矜持の念でした。結局、病院再開発計画が完了する平成24年までの足掛け10年間、病院再開発に大きなエネルギーを注ぐことになり、種々の面で小児科学講座には迷惑をかけたと思っております。10年間に亘る病院再開発の活動から私が学んだことは、(1) 本学教職員の誠実さと潜在的能力、(2) 病院診療実績に対する再開発の中長期的貢献、(3) 独立行政法人としての意識改革、そして(4) 「先人の知恵」でした。紙面の都合で詳しくは述べませんが、病院再開発が終盤に差し掛かった平成23年、天井が低く暗くて閉塞感が強かった玄関ホールが拡張され明るく整然とした空間に生まれ変わるにつれて、これまで薄汚れて見えた陶壁がまるで新たに設置されたように燦然と輝き語りかけてきました。初代病院長中村恒男先生が「生命（いのち）」と命名された陶壁に添えられている銘文を是非お読み下さい。この銘文は10年間に亘る病院再開発の理念そのものであり、滋賀医科大学の進むべき道をも示唆しているように思います。

最後に定年退職にあたり、滋賀医科大学が真に「美しい大学」となり、高い倫理観と透明性を取り戻して社会から正当な評価を受けることを願っています。更に将来、滋賀医科大学が日本の医学界・医療界に富嶽の如く聳える姿を夢見ております。

定年を迎えるにあたり —ただただ感謝—



基礎看護学講座(形態・生理) 森川 茂廣

まずは、平成元年の分子神経生物学研究センターの開設以来、27年間の長きにわたり滋賀医科大学に在職させていただき、多くの皆様とご一緒にいろいろな仕事を楽しくさせていただきましたことを心より御礼申し上げます。

実は、私がこの大学にお世話になったのは、さらに2年遡ります。一般外科・末梢血管外科の臨床に携わっていた私は、大学院での所属は外科でしたが、実際の研究は基礎で血小板のリン脂質代謝についての生化学研究をさせていただきました。学位をいただいた後、大阪の病院に外科医として勤務していましたが、何とか研究を継続させたいとの思いで、私の指導をいただいていた先生の伝手で、当時の本学生化学第I講座の野崎光洋教授に無理をお願いして、研究生にいただき、大阪、京都、滋賀にまたがる私の「三都物語」の生活がほぼ2年間続きました。

そんな時に当時の佐野晴洋学長から分子神経生物学研究センターの寄付講座のお話をいただき、犬伏俊郎教授のもとで、虚血・再灌流障害を中心にMRスペクトロスコピーとMRIの研究に従事させていただくことになりました。もともと物理、特に電磁気に興味を持っていた私は自作のコイルや自作のプログラムを使った実験に夢中になり、学内はもちろん学外の先生方とも一緒にいろいろな領域の研究に携わらせていただきました。さらに私にとって幸運であったのは、平成12年に手術監視用のダブルドーナツ型オープンMR装置がアジアで初めて本学に導入されたことです。外科医でMRの研究に携わってきた私にとっては、この装置はまさに宝の山というか、おもちゃ箱のようなものでした。外科系各科の先生方と一緒にいろいろなMR画像ガイドの手術にかかわらせていただ

き、MR対応の道具を工夫して作ったり、ナビゲーションシステムを作ったりした上に、非磁性の超音波モーターを使って標的を自動的に追尾するMR対応ロボットを作って臨床応用までしてしまいました。今から思うと事故なく無事に過ごせたことに感謝しています。

7年前から、看護学科にお世話になり、解剖学と生理学を担当させていただくことになりました。私自身、看護の研究にほとんど馴染みがなかったのですが、ちょうど母性の先生方がオープンMR装置での坐位の骨盤画像を使った尿失禁研究を展開されており、それをお手伝いすることで何とか看護らしい仕事にかかわることができたと感謝しています。そのおかげで、東京大学が中心となって進めておられた看護理工学会の起ち上げにも参画し、東京大学、大阪大学に続いて、昨秋に第3回の学術集会を私が担当することになり、看護学科の先生方をはじめ、学内の皆様、立命館大学の皆様のご協力のもとに成功裡に無事終えることができました。あまり看護学科のお役にたたなかった私ではありますが、最後にほんの少しだけ滋賀医科大学の看護学科に貢献できたのではないかと自賛しております。

皆様、ほんとうにありがとうございました。

仲間に支えられ、共に歩んだ道

臨床看護学講座(老年) 畑野 相子



私が、滋賀医科大学臨床看護学講座老年看護学領域に着任したのは4年前の2012年です。ちょうど今年度卒業される看護学科の人と同じです。学生さんは、4年間でライセンスをとり専門職として門出するという見事な成長ですね。

私の学びを振り返ってみると、教師1年生は1979年4月でした。初めて保健師教育に携わり、“住民の健康を守るとはどういうことか”や“疾病の予防はどうしたらいいのか”など学生さんと共に考えてきました。血圧指導をした結果「私は、好きなものを我慢して長く生きたいとは思わない。好きなものを食べてたく短く生きるんだ」と言われました。それでいいのかと学生と夜を徹してディスカッションしたものです。そして、“生活の主体者は住民だから、生活を律するのは住民自身である。正しく判断できるように情報提供して支援するのが専門職ではないか”と考えるようになりました。

その後、認知症を有した高齢の人（以下認知症高齢者とする）のケアについて研究してきました。私が認知症高齢者と出会ったのは1988年です。当時、保健行政として認知症対策（当時は痴呆対策）をすることになり、保健所勤務していた私は認知症対策を担当することになったのです。当事者や介護家族の方から多くのことを教えていただきました。アクティビティケアとして風船バレーをワーワー言いながら楽しんだ後、お茶を飲んだ時のことです。「風船バレー楽しかったですね」というと「そんなことしていない」という返事が返ってきました。「今やっていたじゃないですか。これがその風船ですよ」と見せても返事は一緒です。本当にキツネにつままれたような感覚になったのを覚えています。やった事実を理解させようとしていた私です。一番やってはいけない対応をしていたので

すね。家族の方の話は壮絶でした。お祖母さんの介護をされていた孫娘さんは「おばあさんの対応に追われ、わが子を顧みる余裕もなかった。気が付いたら子どもが不登校になっていた」と話してくださいました。ご主人を介護されていた奥さんは「夫が便の付いた手であちこち触るので家中便だらけ。壁に新聞を貼って対応している。そんな時嬉しかったのは、訪問してくれた看護師さんが一緒に掃除してくれたことです。口で指導していきだけの看護師さんは来ていらんと思った」と語ってくださいました。

その頃からかれこれ30年が経過し、認知症のとりえ方も変わりました。以前は認知症を精神の病気と捉え、隠す傾向にありました。今では脳の病気であり、最大のリスクは加齢であると理解されています。周囲の人には奇異に見える行動も、当事者にとっては意味があるので心理を理解しようとパーソンセンタードケアが提唱されています。認知症高齢者の課題は存在不安です。過去がなくなり、未来もなく今を生きる人なのです。そんなひとに安心してもらうための技術としてユマニチュードが注目されています。2015年4月から1年かけて仲間とユマニチュードの学習会をしました。一人ではわからないこともわかるようになりましたし、仲間がいたから学習も継続できました。

私のモットーは「どうせするなら楽しくしよう」です。文句言ってもしなければならぬことはしなければならぬのです。それならば楽しんでやった方が得ですし、学びも大きくなります。仲間と共に、楽しく歩んでいきたいと思います。

何年か先に、認知症になった私と出会ったら優しく声かけしてくださいね。

ありがとうございました。

JCHO 滋賀病院だより

News from
JCHO Shiga Hospital

JCHO滋賀病院 の紹介



滋賀医科大学総合外科学講座 前教授
独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 滋賀病院 院長

来見 良誠

(滋賀医科大学医学部医学科1期生・昭和56年卒)

地域医療機能推進機構 滋賀病院（通称：JCHO 滋賀病院）は、昭和28年に健康保険滋賀病院（2科・50床）として開設され、昭和36年に総合病院健康保険滋賀病院（12科・254床）となり、昭和56年に325床に増床し、昭和60年には健康管理センターを開設しています。平成8年以降は社会保険滋賀病院として永く親しまれてまいりましたが、平成26年、厚生労働省が管轄し、独立行政法人地域医療機能推進機構が直接運営するJCHO 滋賀病院となりました。

地域医療機能推進機構 (JCHO: Japan Community Health Care Organization) は、厚生労働省が管轄する独立行政法人で、全国に57施設（病院57、健康管理センター57、介護老人保健施設26、看護専門学校7、健康増進ホーム3、研修施設1）あり、総病床数は16,212床の巨大な医療組織です。近畿には、滋賀病院（325床）・京都鞍馬口医療センター（320床）・大阪病院（565床）・大阪みなと中央病院（275床）・星ヶ丘医療センター（580床）・神戸中央病院（424床）・大和郡山病院（249床）の7施設があり、共通の理念のもとに運営されています。

JCHO 滋賀病院は、病床数は325床・24診療科でさらに介護老人保健施設（平成11年開設・100床）を併設しています。医療機関としての機能は、①予防医学を主体とする健康管理センター、②診断治療を担う総合病院、③介護を提供する介護老人保健施設の3機能を有しています。施設は外来棟（地上3階/地下1階）・入院病棟（地上6階/地下1階）・健康管理センター（地上3階）・老健施設（地上3階・地下2階）より構成されています。

JR石山駅から国道に沿って京都方面に徒歩15分程度の位置にあり、病院の所在地は、富士見台と言いますが、その名のとおり近江富士（三上山）が真正面に見える小高い丘の中腹にあり、病棟からの風景は絶景です。JR琵琶湖線に乗り国道一号線側を眺めていると、膳所駅と石山駅の間の高台にある病棟が眼に入ります。また、国道一号線を車で走行していると、富士



見台と書かれている交差点があり、そこを山側に曲がると、約300mで病院に到着します。病院の近くには、門前の調剤薬局が3軒並んでいます。病院の敷地は22,535㎡（東京ドームのグラウンド部分面積の1.7倍）で、近くで見ると大きな施設であることがわかります。国道からの直線道路と病院の周囲には桜の木が植えられており、春の満開時には花見気分の風景です。

病院の敷地内に入ると、すぐに小さなロータリーが目につきます。第1駐車場・第2駐車場・第3駐車場まで一筆書きでなぞることが可能で、利用者にとって便利な構造になっています。右側に外来棟、正面に入院病棟、左側に健康管理センター、介護老人保健施設と続いています。全ての建物は渡り廊下で連結されています。また、阪神大震災後に新築されているので、震度7に耐えられる構造になっています。救急患者の搬入口は病院と健康管理センターの連結部にあり、うまい具合に渡り廊下が屋根代わりになっており、患者搬入がスムーズになるよう工夫されています。

正面玄関は外来棟にあります。路線バスの停留所は正面玄関のところであり、大きな屋根が張り出しているため、バスの昇降時に濡れることはありません。自動ドアを二つ通過すると総合待合のエリアに入ります。このエリアは、2階まで吹き抜けになっており、高い天井はゆとりを感じる空間になっています。ここには、エスカレーターがあり、1階と2階のアクセスを良くしています。エスカレーターの奥には総合受付があり、右側には薬剤部があります。玄関側には地域連携

室と医療相談室があり、受診予約や退院調整作業を行っています。地域の医療機関からの紹介が多く、直近（平成27年12月）の紹介率は、57.8%でありました。

外来棟の1階と2階は外来診察室になっており、1日平均500名超の患者さんが受診されています。1階は、内科（循環器内科・消化器内科・代謝内分泌内科・血液内科・腎臓内科・神経内科・総合内科）・外科・整形外科が診療を行っています。2階は、小児科・泌尿器科・産婦人科・眼科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・呼吸器科・皮膚科が診療しています。化学療法室・中央処置室も2階にあります。また2階の一部は検体検査室になっており、ここでは主に生化学検査・病理検査・細菌検査を行っています。手術室は3階にあり、6部屋を使用しています。手術部は、管理者が全ての手術室を最短時間で管理できるように、非常に使いやすい構造になっております。材料部は手術部に隣接しており、手術機器の滅菌操作はここでを行っています。

入院病棟を紹介します。地下1階には、味に定評のある食堂と小さな売店があります。1階部分は、外来診療に関連する医療技術部門になっています。検査部の生理系検査および採血室があります。その横には、放射線部があり、CT検査・MR検査・超音波検査室が並んでおり、その廊下を挟んだ反対側には、X線透視室があります。その隣には内視鏡室が並んでおり、3列並行して検査が可能になっています。上部消化管内視鏡検査は年間約5,000件、下部消化管内視鏡検査は年間1,500件実施しています。更に東側には、救急室がありベッド3台で運営しています。大津市の救急患者の約10%を担当しています。

2階は、人工透析を担当する腎センターがあります。53床がフル稼働しています。昭和44年に滋賀県初の透析室として開設され、最長透析歴は43年の方がおられます。その東側には、リハビリセンター（機能訓練室）があり、理学療法士9名・作業療法士2名が対応しています。

3階より上層階が入院病室になります。3階は1看護単位で運営しています。急性期医療にも迅速・的確に対応できるようにしており、主に外科・歯科口腔外科・消化器内科が使用しています。4階は1看護単位で運営する地域包括ケア病棟になっています。この病棟は、平成27年12月より使用方法を変更しています。これまでは、急性期のみの診療を行っていましたが、これからの超高齢化社会に対応できるように、地域に密着した総合診療を提供できる体制を整備いたしました。病院全体として専門診療と総合診療の両面の専門

医を育成できる仕組みを構築しています。5階は2看護単位で運営しています。5A病棟（整形外科・腎臓内科・神経内科・小児科）、5B病棟（循環器内科）となっています。循環器症例は特に多く、心臓カテーテル症例は、年間200例を超えています。6階は1看護単位で呼吸器内科・呼吸器外科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科が使用しています。

健康管理棟には、1階部分は健康管理センターがあり、受付・診察室・生体検査室・X線検査室があります。ここでは、年間13,000件の健康診断が行われています。健康診断は院内だけでなく、バスによる巡回健康診断も行っており、滋賀県全域にわたりバス3台を用いて、年間30,000件の健康診断を行っています。院内・院外の健康診断の合計は43,000件におよんでいます。2階は健康管理センターの事務部門とそれに接して職員専用の院内保育所として「すみれ保育所」を運営しています。20名までの保育が可能です。3階部分は病院全体の事務部門になっており、会議室・研修室などがあります。

老健施設棟は、健康管理棟と3階部分の空中回廊で接続されています。地下2階・地下1階は駐車場になっています。1階部分は、入り口近くには事務部門があり、奥のほうにレクリエーションルームとリハビリ訓練広場があります。療養室は2階と3階になっています。合計100名の療養が可能です。通所利用は40名まで対応しているため、最大140名の方が同時利用できる規模の施設です。

当院の周辺にはいくつかの病院があり、急性期のみを対象とする病院と慢性期のみを対象とする病院に分かれています。当院は今後急性期の専門診療を主体とした病院であると同時に、地域医療機能推進機構という名前が示すように、地域に根ざした診療のできる体制も導入しようと考えています。平成27年9月29日、滋賀医科大学と地域医療機能推進機構は、滋賀医科大学教育研究拠点の協定を締結しており、今後滋賀医科大学の重要な教育研究施設の一つになる道筋は完成しました。

滋賀医科大学の地域医療教育研究を担う活動拠点として、①東近江総合医療センターが遠隔地型（自己完結型）地域医療を進め、②JCHO滋賀病院が都市近郊型（機能補完型）の地域医療の実践と教育研究を進めて、2つの施設が車の両輪となって総合診療マインドをもった各分野の専門医を育成したいと思っています。

腎センターの紹介

JCHO滋賀病院 副院長・腎センター部長

有村 哲朗

(滋賀医科大学医学部医学科4期生・昭和59年卒)

滋賀県で最も歴史のある透析施設

JCHO 滋賀病院は、1953年5月に総合病院健康保険滋賀病院として開院し、2013年に60周年を迎えました。人工透析を開始したのは1969年と早く、滋賀県下初の透析施設として4床で開設いたしました。滋賀医科大学が1974年の開設ですから、滋賀医科大学よりも歴史があるということになります。人工透析室として1974年に20床、1982年に40床に増床し、1997年には病院の増改築に伴い、2階の中央部を占める現在の広々とした透析室53床(図1)に移転し、1998年腎センターと改称しております。私は1993年に3代目の人工透析室室長、現在の腎センター部長に就任しています。

日本透析医学会の統計調査では2014年末現在、維持透析患者数は約32万人です。滋賀県は34透析施設あり、患者数は全体で3062人ですが、当院は現在約200人の維持透析患者を管理しております。患者の平均年齢は68.2歳と全国平均の66.4歳に比し高齢で、最高齢は91歳の糖尿病のお婆さんですが、車椅子ながら外来通院されています。また、長期透析歴の患者は多く、20年以上透析歴の患者の占める割合は15.1%と全国平均の7.9%の約2倍で、最長透析歴は43年の患者さんがおられます。



図1 広々とした透析室

健診から保存期管理そして透析医療までのシームレスな腎疾患医療

腎センターは、腎臓・糖尿病・内分泌代謝内科の一部門として位置付けられています。そのため、腎センターに在籍する医師は腎臓病のみならず糖尿病などの管理も得意としており、健康診断受診者の精密検査から慢性腎炎の検査・治療、糖尿病性腎症の管理、保存期腎不全や末期腎不全の管理、透析療法(血液透析、腹膜透析)と長期にわたる患者管理が可能となっています。残念ながら腎移植は当院ではできませんが、それ以外の内科的腎疾患医療はすべて担っております。

先進的取り組みを特徴とする透析医療

血液浄化法には大きく分けて、血液透析(Hemodialysis: HD)、血液濾過(Hemofiltration: HF)、血液透析濾過(Hemodiafiltration: HDF)、血漿交換、吸着療法の5種類があります。このうちHDはダイアライザー(透析器)内で透析膜の外部に透析液を流入させますが、HFでは透析液は使用せず補充液を直接体内へ注入するという違いがあります。HDFは透析液と補充液両方を使用するわけですが、その中でも、オンラインHDFは透析液を直接補充液として体内に投与することができるため、1回の透析あたり40L~70Lもの大量置換ができる療法です。しかし、このためには透析液清浄化が必須で、透析液の生成から回路にいたるまで抜本的な対策が必要となります。オンラインHDFは手根管症候群、透析関節症などの透析アミロイド症の予防・症状改善やエリスロポエチン不応性腎性貧血、レス



図2 患者さん宅における在宅血液透析の様子

トレスレック症候群、掻痒症などの透析合併症の改善のみならず、生命予後の改善も期待されています。当院では1995年より透析液の清浄化に取り組み、1997年の改築移転を機に本格的にオンラインHDFを開始しています。現在、HDF療法の垂型として、透析低血圧のための酢酸フリー血液透析濾過(Acetate free biofiltration: AFBF)や抹消循環改善も加味した間歇補充型HDF(Intermittent infusion hemodiafiltration: I-HDF)など患者の病状に応じた、テーラーメイド透析医療を行っています。

また、在宅医療にも積極的に取り組んでいます。在宅血液透析患者は現在5人います。(図2)在宅血液透析患者数は2014年末現在、滋賀県で31人、全国でもまだ529人ですが、病院へは月1回の通院でよく、また保険上も頻回透析が可能で腎移植を凌駕する効果が期待されています。在宅血液透析の導入に対応できる施設は津市内では当院のみであり、他院から導入依頼もきています。その他、腹膜透析では自動腹膜透析装置を積極的に導入し、患者のQOL改善に取り組んでいます。

慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease: CKD) 対策を通じた地域医療への貢献

CKDは成人の8人に1人は罹患していると言われ、21世紀の国民病とも位置付けられています。CKDは進行すると透析医療が必要となるだけでなく、心血管疾患の合併が問題となっていますが、患者数の多さや生活習慣病からのCKDが多いことから、かかりつけ医との医療連携や看護師、管理栄養士、薬剤師などの多職種による腎臓病療養指導が重要と考えられています。

滋賀県には病院や診療所の医師、薬剤師などが集まる「滋賀CKDネットワーク研究会」が組織されており、滋賀県下統一したCKD地域連携パスが作られ、またお薬手帳に貼ってCKD患者であることを薬剤師が一目で把握できるようにするCKDシール(図3)の活用が勧められています。私もその研究会の世話人であり、この活動に参加するとともに、独自に院内に「CKD対策委員会」を設置しています。メンバーは医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、MSW、事務からなり、広報活動(かかりつけ医向けの「そらまめ通信」の発行)(図4)や院内の患者のe-GFR値の推移などのデータ分析、患者管理としては「じん教室」



図3 CKDシール

(集団指導)、「そらまめ相談外来」(個別指導)(図5)や「そらまめ入院」(1週間の短期教育入院)をしています。



図4 そらまめ通信



図5 「そらまめ相談外来」の様子

今後の課題と展望

透析患者の増加ならびに心血管疾患の増加は医療経済上も多大な影響を及ぼしています。そのためにはやはりCKD対策が喫緊の課題となっています。CKD地域連携パスを使用したかかりつけ医との医療連携、多職種連携による腎臓病療養指導を更に推進していく必要があると考えています。透析医療については、患者の高齢化が問題であり、患者数は数年以内に減少に転ずるとの予測もでていますが、認知症患者の増加もふまえて、透析導入ならびに透析中止に関して厳しい選択を迫られることが推測されます。

今後、JCHO滋賀病院は滋賀医科大学の地域医療教育研究拠点の活動拠点病院としての役割があり、学生・研修医に対して東近江総合医療センターとは違う都市近郊型の地域医療を経験していただき、腎センターにおいては、「健診から透析まで」の幅広い腎疾患医療について研修・教育に尽力していきたいと思っています。

研究医コースのご案内

研究は案外身近で、おもしろい

ちょっとでも興味があれば、入門研究医コースに参加してみよう！

入門研究医コースは、基礎医学講座が研究活動の情報と場を提供して研究への興味を育てようとするもので、基本的に出入り自由です。

研究室の様々な活動に参加しながら、研究の基盤となる知識の習得や、研究の動向の理解に重点を置いた指導を受けることとなります。

研究室を選ぶために必要な情報は、1年後期の必修授業（医学特論・医学・生命科学入門II、2年生以上も出席可）で得ることができます。複数の研究室をローテートすることも可能です。また、他大学の研究医コースの学生と交流できるリトリート（研修会）等の機会もありますので、漠然と研究に興味がある学生でも無理なく参加できます。

入門研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。



本格的に取り組むなら、登録研究医コースへ！

登録研究医コースへの登録は第1～5学年のいずれの時点でも可能で、毎年2～3月と7月に面接やレポート等による資格確認が行われます。

興味のある研究領域に応じて分子医科学・病理学・法医学・公衆衛生学の各専攻を選択し、自分の研究テーマをもって実際に研究活動に参加することとなります。アドバイザーとして、指名された基礎医学講座の教授・准教授と、本事業専任の特任助教が研究について一から相談に乗ります。それ以外の基礎医学講座の教員の実験指導も受けられますので、効率的に研究を進めることができます。



希望に応じて、複数の講座をローテートしたり、連携大学である浜松医科大学や三重大学に出向いて、幅広い研究手法を身につけることも可能です。

登録研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。また、大学院の講義の聴講が一部可能になります。

詳しくは、研究医養成コースのホームページへ (<http://www.shiga-med.ac.jp/kenkyui/>)

第41回滋賀医科大学若鮎祭収支決算報告

第41回滋賀医科大学若鮎祭 実行委員会

【収入】

(単位：円)

| | | | |
|-----------|----------------|-------------|------------|
| 執行部 | 近江八幡市蒲生郡医師会 | ¥10,000 | ¥4,867,200 |
| | 大津市医師会 | ¥50,000 | |
| | 守山野洲医師会 | ¥20,000 | |
| | 甲賀湖南医師会 | ¥10,000 | |
| | 草津栗東医師会 | ¥30,000 | |
| | 東近江医師会 | ¥10,000 | |
| | 湖北医師会 | ¥10,000 | |
| | 高島市医師会 | ¥5,000 | |
| | 彦根医師会 | ¥10,000 | |
| | 滋賀県医師会 | ¥50,000 | |
| | 滋賀医科大学医師会 | ¥60,000 | |
| | 和仁会 | ¥200,000 | |
| | 滋賀医科大学医学科後援会 | ¥300,000 | |
| | 滋賀医科大学看護科後援会 | ¥100,000 | |
| | 滋賀医科大学同窓会「湖医会」 | ¥200,000 | |
| | 学内寄付 | ¥870,000 | |
| | 滋賀医科大学学生自治会 | ¥1,500,000 | |
| 滋賀医科大学体育会 | ¥1,000,000 | | |
| 滋賀医科大学文化会 | ¥406,000 | | |
| 学外寄付 | ¥20,000 | | |
| 食券売上 | ¥6,200 | | |
| 総務局 | 模擬店出店料 | ¥354,800 | ¥354,800 |
| 広告局 | パンフレット広告掲載料 | ¥2,419,158 | ¥2,419,158 |
| 広報局 | 学祭パーカー売上 | ¥1,496,000 | ¥1,496,000 |
| 企画局 | 緑日・フリーマーケット売上 | ¥96,000 | ¥112,790 |
| | その他企画売上 | ¥16,790 | |
| その他 | 預金利息 | | ¥278 |
| 合計 | | ¥9,250,226 | |
| 前年度繰越金 | | ¥3,541,471 | |
| 総計 | | ¥12,791,697 | |

【支出】

(単位：円)

| | | | | |
|------------------|----------------|-------------|------------|------------|
| 執行部 | スタッフジャンパー | ¥53,892 | ¥302,892 | |
| | 文具・事務用品・コピー | ¥8,746 | | |
| | 郵送・通信 | ¥15,766 | | |
| | 保険料 | ¥58,310 | | |
| | クリーニング費 | ¥6,264 | | |
| | 執行部イベント関連 | ¥159,914 | | |
| 総務局 | 文具・事務用品・コピー | ¥10,704 | ¥70,024 | |
| | 衛生関連 | ¥56,766 | | |
| | 物品・設備 | ¥2,554 | | |
| 広告局 | 文具・事務用品・コピー | ¥31,648 | ¥207,705 | |
| | 郵送・通信 | ¥160,687 | | |
| | 交通費 | ¥8,890 | | |
| | 口座手数料 | ¥6,480 | | |
| 広報局 | 文具・事務用品・コピー | ¥6,805 | ¥1,815,830 | |
| | 学祭パーカー | ¥940,688 | | |
| | パンフレット | ¥720,468 | | |
| | 学祭 PR 活動費 | ¥108,807 | | |
| | 看板製作費 | ¥39,062 | | |
| 企画局 | 文具・事務用品・コピー | ¥963 | ¥839,423 | |
| | イベント (食堂) | 文具・事務用品 | | ¥4,244 |
| | | 雑貨 | | ¥4,076 |
| | | 占い | | ¥12,400 |
| | | 似顔絵 | | ¥2,380 |
| | | ものづくり教室 | | ¥4,263 |
| | イベント (屋外) | 移動動物園 | | ¥354,249 |
| | | スタンプラリー | | ¥17,464 |
| | | バルーンアート | | ¥9,480 |
| | | しゃぼんだまで遊ぼう | | ¥5,358 |
| | イベント (講演会) | 文具・事務用品 | | ¥1,338 |
| | | ポスター代 | | ¥22,680 |
| | | 講演料 (東先生) | | ¥95,844 |
| | | 講演料 (夏川先生) | | ¥52,820 |
| | | 講演料 (江部先生) | | ¥54,137 |
| 懇親会 (浅井先生) | | ¥20,000 | | |
| イベント (講義室) | 上映会 | ¥5,238 | | |
| | メディカルミュージアム | ¥10,584 | | |
| | スマブラ | ¥3,294 | | |
| | ティールーム | ¥27,648 | | |
| イベント (体育館・グラウンド) | 麻雀 | ¥2,433 | | |
| | 文具・事務用品 | ¥2,052 | | |
| | スポーツ大会 | ¥3,938 | | |
| お弁当 | ¥69,364 | ¥75,354 | | |
| ステージ局 | お弁当 | | ¥45,678 | |
| | 文具・事務用品・コピー・雑費 | ¥10,020 | ¥5,614,016 | |
| | ステージ設営 | ¥2,485,620 | | |
| | 電気工事費 | ¥648,540 | | |
| | 電気燃料費 | ¥50,117 | | |
| | フィナーレ班 | 電飾・工作材料 | | ¥163,811 |
| | | 泡パーティ | | ¥710,760 |
| | 映像班 | | | ¥874,571 |
| | 交渉班 (接待)・お弁当代 | ¥7,072 | | ¥45,664 |
| | 吉本芸人・ケイト | | | ¥1,400,540 |
| | ミスコン | | | ¥25,292 |
| | ステージ企画 | | | ¥57,580 |
| 合計 | | ¥8,849,890 | | |
| 次年度繰越金 | | ¥3,941,807 | | |
| 総計 | | ¥12,791,697 | | |

●監査報告

第41回若鮎祭の会計監査を行ったところ、適正かつ正確に運営されていたことを報告いたします。

第40回 滋賀医科大学若鮎祭
実行委員長 赤井 勇介

勢多だより

SETA DAYORI

「勢多だより」の由来

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

(題字は、故 脇坂行一初代学長による)

2016年3月



編集後記

今年度卒業・修了された皆さん、おめでとうございます。皆さんは滋賀医科大学で過ごした数年間に様々な思い出を作られたことでしょう。先日とある会議で、滋賀医科大学の卒業生である先生が「中庭にある池のブロックの一つ一つに思い出が詰まっている」と発言されました。皆さんにもきっと中庭はもちろん、基礎医学棟の古い古い校舎、生協のテラス、体育館、図書館…学内の至る所とともに過ごした仲間や先輩方とのエピソードがあり、そうした出来事の積み重ねが皆さん方の人間力を育ててきたのだと思います。これから始まる医療人・研究者としての生活の中では困難に出遭うこともあると思いますが、大学で学び経験した多くのことを忘れることなく、滋賀医科大学の卒業生であることに誇りを持って、輝かしい未来に向かって真っ直ぐに進んでくださることを願っています。

編集委員長 宮松 直美

勢多だより No.104

[発行年月日]平成28年3月25日 [編集]「勢多だより」編集担当者会議 [発行]滋賀医科大学広報委員会



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動-これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動-これは人々の期待に返す答えである。」

